

令和5年度
舞台芸術等総合支援事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)

自己点検報告書

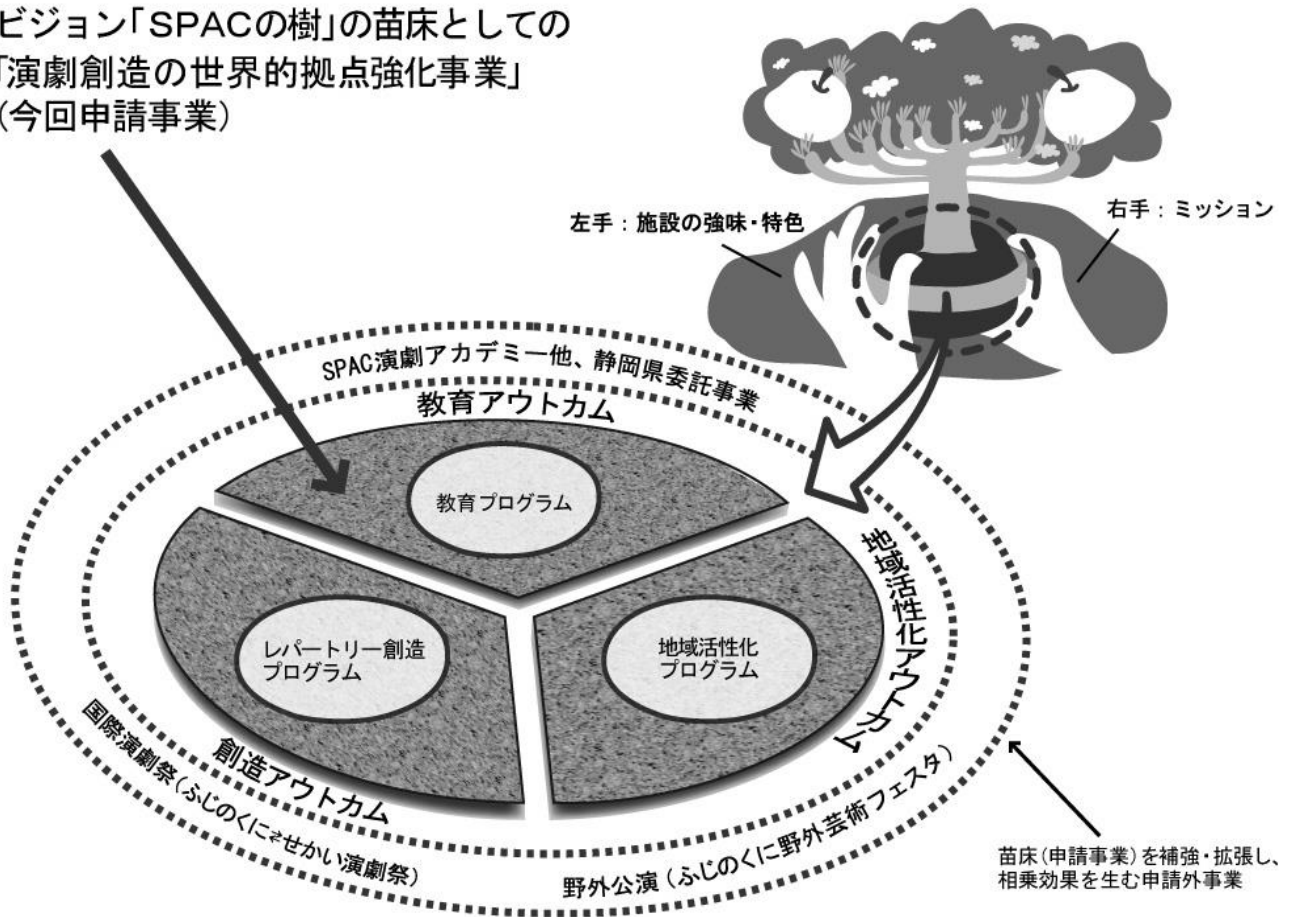
団 体 名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター	
施 設 名	静岡県舞台芸術センター (SPAC)	
助 成 対 象 活 動 名	演劇創造の世界的拠点強化事業	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	52,496	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

ビジョン「SPACの樹」の苗床としての
「演劇創造の世界的拠点強化事業」
(今回申請事業)



(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム(1) 『伊豆の踊子』	令和5年10月～令和6年2月	『伊豆の踊子』 台本・演出：多田淳之介 出演：SPAC	目標値	8,700
		静岡芸術劇場、下田市 民文化会館ほか		実績値	9,984
2	レパトリー創造プログラム(2) 『お艶の恋』	令和5年12月	『お艶の恋』 台本・演出：石神夏希 出演：SPAC	目標値	1,630
		静岡芸術劇場		実績値	1,464
3	レパトリー創造プログラム(3) 『ばらの騎士』	令和6年1月～3月	『ばらの騎士』 演出：宮城聡、共同演出：寺内亜矢子、出演：SPAC	目標値	6,350
		静岡芸術劇場		実績値	6,114
4	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS=スパ カンファン-プラス	令和5年4月～令和6年3月	振付・演出：メルラン・ニヤカム 出演：静岡県内の中高生、55歳以上のメンバー	目標値	20
		静岡芸術劇場、舞台芸術公園		実績値	20
5	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	令和5年7月～8月	演出・指導：中野真希 指導アシスタント：SPAC 出演：静岡県内の中高生	目標値	30
		静岡芸術劇場		実績値	20
6	教育プログラム(3) SPACこども大会	令和6年3月	出演：静岡県内在住の小学生 司会・チューター：SPAC	目標値	40
		静岡芸術劇場		実績値	69
7	地域活性化プログラム(1) 鑑賞機会拡充アウトリーチ	令和5年6月～令和6年3月	「てあとるてをとる(SPACインクルーシブシアター)」「SPAC出張劇場」「おはなし劇場」出演：SPAC	目標値	890
		静岡県内幼稚園、図書館等		実績値	1,159
8	地域活性化プログラム(2) 参加体験型アウトリーチ	令和5年6月～令和6年1月	「ひらけ！パフォーミングアーツのとびら」「ダンスの種」「シニアのための演劇WS」講師：SPAC	目標値	880
		静岡県内小学校等		実績値	549

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>「演劇創造の世界的拠点強化事業」は、SPACが日本で唯一の〈専用劇場を持った公立劇団〉であるという独自性と、国内外で高い評価を得てきた25年以上にわたる演劇創造活動の蓄積を生かした事業である。SPACは、ミッションとして《世界をリードする創造的活動によって、日本文化の国際的プレゼンスを高めるとともに、地域の文化的発展に貢献します》を掲げ、ビジョン《日本の舞台芸術の国際的プレゼンス確立》の実現に向け活動する。その結果もたらされるソーシャルインパクト＝2つの果実として、静岡が〈世界中から演劇ファンが集まる「演劇の都＝SHIZUOKA」〉となり、SPACが〈世界中から優秀な人材が集まる、演劇における高等教育機関〉となる事を想定。そのための“苗床”として、本事業を位置づけた。</p> <p>人口減少、少子高齢化が進む静岡県は、「静岡県文化振興基本計画(第5期／令和4～7年度)」において、重点施策として、〈世界に輝くしずおか文化芸術の振興〉や〈文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進〉等を掲げ、その具体的な取り組みとして、SPACの事業を位置付けている。</p> <p>本事業の計画は、上記のミッション、ビジョン、静岡県の文化政策を背景に、「レパートリー創造プログラム」、「教育プログラム」、「地域活性化プログラム」に大別される8つの事業から構成され、創造・教育・地域活性化のアウトカム発現に向けて6つの目標を立てて事業を推進する。令和5年度の実績として、定量的な指標15項目のうち、9項目において達成することができた。残る6項目については達成率が平均87%となっている。また、地域活性化プログラムにおいては、裾野市や河津町観光協会など新たな連携先を増やすことができ、地域との関係性を広げることができた。</p> <p>助成対象外事業である国際演劇祭「ふじのくにせかい演劇祭」、地域の観光資源との連携による野外公演「ふじのくに野外芸術フェスタ」、静岡県からの委託事業である「SPAC演劇アカデミー」との相乗効果もあり、アウトカムの発現を認めることができ、事業は予定通りに進められたといえる。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>●文化的意義(文化・芸術の水準がどのように向上したか。)</p> <p>本事業の根幹をなすレパートリー創造プログラムでは、『伊豆の踊子』、『お艶の恋』、『ばらの騎士』の3つの新作を創作。川端康成、谷崎潤一郎、ホーフマンスタールの作品を扱うことによって、「演劇の教科書」としてのレパートリーにさらに厚みを持たせることができた。『伊豆の踊子』、『お艶の恋』の演出家として招聘したのは、多田淳之介、石神夏希の2人で、ともにSPACでの演出は2作目となった。また、『ばらの騎士』では、宮城聰に加え、共同演出として寺内亜矢子が抜擢され、次世代を担う演出家たちが研鑽を積む機会となった。</p> <p>『伊豆の踊子』では、作品の舞台となる伊豆地域の風景を映画監督の本広克行氏監修により撮影し、その映像を織り込んで舞台化した。舞台を観ると行ってみたいくなる「観光演劇」と銘打ち、地域の魅力を対外的に発信できる質の高い演劇コンテンツを誕生させることができた。</p> <p>R・シュトラウス作曲のオペラ作品をストレートプレイとして創作した『ばらの騎士』では、劇中音楽をつくるために音楽家の根本卓也氏を招聘し、SPACの創作・表現の手法に広がりを持たせることができた。</p> <p>●社会的意義(地域社会に対してどのように貢献したか。)</p> <p>レパートリー創造プログラムでは、中高生鑑賞事業を実施し令和5年度は目標の10,000人を超える13,870人の中高生に観劇してもらうことができた。『伊豆の踊子』は、下田、浜北、沼津での出張公演も行き、遠方の学校の参加を促した。教育プログラムでは小中高生に加え55歳以上のメンバーも含め109人の方に舞台に立つ体験をしていただくことができたほか、地域活性化プログラムにおいては劇場の外に出向く形で多様な世代にアプローチすることができた。このように、「観る」「つくる」「体験する」「関わる」など演劇に対してさまざまな関わり方を選べる環境を提供することで地域社会に貢献できた。</p> <p>●経済的意義(地域経済や国民生活にどのような変化をもたらしたか。)</p> <p>『ばらの騎士』において、稽古見学やスタッフによる講座に参加できる有料のオープンクリエイション企画『『ばらの騎士』サロン』を実施した。本番のチケット収入だけでなく、プロセスを買ってもらうという新たな収入源となった。一方で、サロン参加者にとっては、創作現場や劇場運営についての貴重な学びの場となり、将来の演劇・劇場界を支える人材の育成に寄与したといえる。観光演劇を銘打った『伊豆の踊子』は、演劇に触れることが観光につながることを示すことができ、河津町とのコラボレーションによる「河津さくら祭」への出演にもつながった。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

★目標① 自主制作および国内外のアーティスト・劇場との共同制作を通じた、舞台芸術に係る人材育成の継続

指標① ・創造プログラムにおける俳優のエントリー人数(のべ人数): 目標 44 名/実績 35 名(未達成)

・創造プログラムにおける専属スタッフのエントリー人数(のべ人数): 目標 60 名/実績 46 名(未達成)

★目標② SPACの提供する良質で多様な舞台芸術作品を享受できる観客の創出

指標② ・創造プログラム「一般公演」公演回数: 目標 17 回/実績 16 回(未達成)

・創造プログラム来場者数(「中高生鑑賞事業公演」による来場生徒数を除く): 目標 2,500 人/実績 3,277 名(達成)

・創造プログラム来場者満足度(来場者アンケートにて「とても良い」「良い」の選択率): 目標 95%/実績 92%(未達成)

★目標③ 地域の中高生のために、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を拡大

指標③ ・創造プログラム「中高生鑑賞事業公演」公演回数: 目標 50 回/実績 58 回(達成)

・創造プログラム「中高生鑑賞事業公演」参加学校数: 目標 70 校/実績 106 校(達成)

・創造プログラム「中高生鑑賞事業公演」鑑賞者数: 目標 10,000 人/実績 13,870 人(達成)

目標①～③は創造アウトカムに関連する。目標①は未達成だが、『伊豆の踊子』の多田淳之介、『お艶の恋』の石神夏希、『ばらの騎士』の寺内亜矢子という3人の演出家育成につなげることができた。また、目標②も未達成項目があるが、観客の創出の観点では達成している。目標③はすべての指標において達成することができた。よって、創造アウトカムは発現できたといえる。

★目標④ あらゆる年代を対象に、舞台芸術を通じた創造的教育活動の継続

指標④ ・教育プログラム参加者数: 目標 90 名/実績 109 名(達成)

・教育プログラム実施日数(稽古日含む): 目標 75 日/実績 75 日(達成)

・教育プログラム参加者満足度(参加者アンケートより): 目標 90%/実績 100%(達成)

・教育プログラム発表会来場者数: 目標 950 人/実績 1,093 人(達成)

目標④は教育アウトカムに関連する。すべての指標項目において達成していることから、教育アウトカムは発現できたといえる。

★目標⑤ SPAC の拠点以外で舞台芸術の鑑賞や体験を享受できる機会を拡大

指標⑤ ・地域活性化プログラム参加者数: 目標 1,770 人/実績 1,708 人(未達成)

・地域活性化プログラム実施箇所数(のべ箇所数): 目標 34 箇所/実績 28 箇所(未達成)

★目標⑥ 共催者と緊密に連携し、地域課題へのアプローチを継続

指標⑥ ・地域活性化プログラム共催者満足度(共催者アンケートより): 目標 80%/実績 86%(達成)

・地域活性化プログラム実施に当たっての工夫等: 下記のとおり

目標⑤⑥は地域活性化アウトカムに関連する。地域活性化プログラムでは、幼稚園、学校、図書館などで演劇作品の上演やワークショップ等を行うことにより、地域の多様な文化活動拠点との連携を築いたが、目標の達成には至らなかった。一方で共催者満足度は達成しており、地域活性化アウトカムは発現できたといえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

SPACは静岡に専用の劇場や稽古場を持ち、継続して事業に参加する俳優、舞台スタッフとの活動を展開できる体制を取っていることで、レパトリー創造プログラム、教育プログラム、地域活性化プログラムの各事業が有機的に関係しながら成果をあげることができている。下記のとおり、事業期間は適切で計画どおりに進んでいる。

◆ レパトリー創造プログラム(1)(2)(3)

本プログラムでは、「SPAC 秋→春のシーズン」における SPAC のレパトリー作品の創造を行った。『伊豆の踊子』、『お艶の恋』、『ばらの騎士』いずれも新作のため、約2か月の創作期間を確保するだけでなく、約1か月～2か月にわたる公演期間によって、本番を繰り返しながら作品をブラッシュアップさせることが可能となった。

◆ 教育プログラム(1)(2)(3)

(1)のスパカンファンプラスと(2)のシアタースクールは、中高生を対象にしているため、主に7月～8月の夏休み期間約1か月半に集中的に行われる。ただし、スパカンファンプラスは、夏休み以外の時期にも月に1回のペースで稽古に臨んだ。(3)のこども大会は小学生を対象としており春休みに近い3月の週末に実施している。

◆ 地域活性化プログラム(1)(2)

本プログラムは、学校等の教育機関、図書館等の文化施設との連携によって実施するケースが多く、期間の幅を持たせており、6月から翌年の3月までを実施期間としている。このことにより、個別に臨機応変に対応することができている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

◆ レパトリー創造プログラム(1)(2)(3)

(1)『伊豆の踊子』と(3)『ばらの騎士』は、当初積算に対する決算額の比が80%以上となり、おおむね計画どおりに実施されたといえる。ただし、(2)『お艶の恋』は当初積算の14,194,000円に対し、決算は9,769,303円となり、その比は約69%であり、大きな乖離が発生してしまっている。これは当初計画していた『メナム河の日本人』から『お艶の恋』に演目が変わったためである。『メナム河の日本人』の稽古開始直前に俳優複数名に新型コロナウイルス感染による体調不良者および陽性者が出たことにより、稽古の実施が不可能となった。演出家の都合上、稽古を別日程で確保することができず、別プログラムで創作を予定していた石神夏希演出の『お艶殺し』を「SPAC秋→春のシーズン」の演目としても上演することとなった(タイトルは『お艶の恋』)。『メナム河の日本人』に比べ、『お艶の恋』は出演者の人数が半数以下のため、支出も大幅な減となった。こうした不測の事態にも臨機応変に対応できたのは、SPACならではの強みである。

◆ 教育プログラム(1)(2)(3)

(1)スパカンファンプラスは、当初積算に対する決算額の比が約90%となり、おおむね計画どおりに実施されたといえる。(2)シアタースクールでは、約75%となっている。これは、中高生の参加者が想定の3分の2程度であり、アシスタントの人数が減ったためである。(3)こども大会は、約62%となっている。これは、広報戦略として発表会のチラシをつくらなかったため印刷、送付にかかる費用が大幅に削減できたことが主な理由である。(2)(3)ともに事業自体は適切に実施された。

◆ 地域活性化プログラム(1)(2)

(1)鑑賞機会拡充アウトリーチ、(2)参加体験型アウトリーチともに、当初積算に対する決算額の比が92%～112%のあいだにあり、事業はおおむね計画どおりに実施されたといえる。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、獨創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

SPACは日本で唯一の「専用の劇場を持った公立劇団」として、パフォーミングアーツ専用設計された静岡芸術劇場と舞台芸術公園を拠点に、人事権と予算執行権を持つ芸術総監督のもとで専属の俳優やスタッフが活動する独自の体制を敷いている。静岡芸術劇場には衣裳・舞台美術の創作のための工房、演劇に特化した音響・照明設備があり、専属スタッフが常駐し創作活動を続けている。さらに制作スタッフ自らが票券システムの管理運用や、多くの広報物についても自らデザイン制作を行っている。

静岡県は令和3年に「演劇の都」構想を策定し、SPACを象徴に据え、演劇をテーマとして多くの人々が集い、劇場や公園、周辺の文化・観光施設まで含めて地域全体が演劇をキーワードに活性化することを目指している。また、令和5年に静岡県は東アジア文化都市に選定され、SPACの『天守物語』はその一環として、駿府城公園と浜松城公園にて上演された。これらのことから、SPACの活動の獨創性、新規性、先導性が改めて認められたといえる。

◆レパトリー創造プログラム

『伊豆の踊子』、『お艶の恋』、『ばらの騎士』の3つの新作を創作。川端康成、谷崎潤一郎、ホーフマンスタールの作品を扱うことによって、「演劇の教科書」としてのレパトリーにさらに厚みを持たせることができた。SPACの作品を観続ければ、演劇史が俯瞰でき、演劇を見ることが一層楽しくなっていくラインナップは10数年にわたり同じコンセプトでプログラミングを行える持続的な獨創性によるものである。

『伊豆の踊子』では、作品の舞台となる伊豆地域の風景を映画監督の本広克行氏監修により撮影し、その映像を織り込んで舞台化した。舞台を観ると行ってみたいくなる「観光演劇」と銘打ち、地域の魅力を対外的に発信できる質の高い演劇コンテンツという新規性に富んだ作品を誕生させることができた。

R・シュトラウス作曲のオペラ作品をストレートプレイとして創作した『ばらの騎士』では、劇中音楽をつくるために音楽家の根本卓也氏を招聘し、SPACの創作・表現の手法に広がりを持たせることができた。さらに、作品をつくるプロセスを公開して課金していただくというプロセスエコノミーを導入したことは先導性が認められる。

◆教育プログラム

(1)SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクトは、静岡県から世界で活躍する舞台芸術家の輩出を目指し、平成22年度に開始した事業であるが、平成31年より55歳以上の大人も参加者に加え、中高生とシニアによる世代をつなぐダンスプロジェクト「SPAC-ENFANTS-PLUS」に発展させた。対象年齢を絞った一般参加型プロジェクトはすでに多く見られるが、中高生と55歳以上という世代を越えた参加者が集まり一緒に作品創造を行うものは、まだあまり類を見ず、獨創性が認められる。

(2)SPACシアタースクールは、学校の夏季休暇の間を利用して静岡県内各地から様々な中高生が集まり、演劇の面白さ、奥深さを体験することを通して、他者への共感や多様性の尊重、未知への好奇心といった創造的感性を育むことを目的とした事業である。プロを目指す中高生を対象とした事業ではないが、継続者も多く、事業後の本人・保護者へのアンケート結果からも、参加者の満足度は非常に高い事業となっている。これは数々の作品創作で様々な舞台表現手法を、ワークショップで様々なファシリテートの知見を得たSPACのプロの俳優やスタッフが、参加者各人を丁寧にケアしながら、参加者全員の集団創作で最終的に一つの作品を作り上げている部分に負うところが大きい。

こうした活動が認められ、助成対象外事業ではあるが、令和3年度より静岡県からの委託事業として「世界で活躍できる演劇人」を目指す若者のための演劇塾「SPAC演劇アカデミー」を運営することにつながった。さらに、静岡県立清水南高校芸術科に演劇専攻を設置し、そのカリキュラム研究としての役割も担った。静岡に住み学びながら、演劇人として世界に挑戦できる場が若者に開かれていることは、地域にアーティストが住み、活動するSPACならではの先導性であると言える。

◆地域活性化プログラム

各企画の講師、コーディネーターをSPACの俳優やスタッフが務めることで、地域課題やニーズに沿った柔軟なプログラムを多数提案・展開しているが、大きくは(1)鑑賞機会拡充と、(2)参加体験型の2種類のアウトリーチ事業に分けている。平成31年度には、「静岡県子どもが文化と出会う機会創出事業」の一環として静岡県からの委託を受けて、学校訪問プロジェクト「ひらけ!パフォーミングアーツのとびら」を新たに実施した。各学校や放課後児童クラブなどを訪問し、子ども達に演劇やダンスに触れる機会を提供し、地域の学校現場におけるSPACの認知度向上と、県立劇団としての公益性に対する評価を高めた。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

芸術総監督を務める宮城聰の創造活動への評価は国内外で確立されており、平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)を受賞、平成31年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章、令和5年度第50回国際交流基金賞を受賞している。また、令和4年に世界的なオペラの祭典、仏・エクサン・プロヴァンス音楽祭にて『イドメネオ』、同年12月には独・ベルリン国立歌劇場における初の日本人演出家として『ポントの王ミトリダーテ』を演出し大きな反響を呼んだ。

◆レパトリー創造プログラム

令和4年度の助成対象事業であったレパトリー創造プログラムの『人形の家』(演出:宮城聰)は、令和5年6月に中国の阿那亜演劇祭に招聘され、フェスティバルクロージング作品として上演された。500人収容の客席は全公演満席で、観客の反応も良く、北京青年報には詳細な劇評が掲載された。翌年令和6年の阿那亜演劇祭への招聘も決まり、クロージング作品として『天守物語』(演出:宮城聰)が上演される。さらに今回は、1000人収容の野外劇場で公演数も増えている。SPACへの期待値があがっていることへの表れである。

令和5年10月には、東京芸術祭2023のプログラムとして、東京駅を背景に行幸通りに特設舞台を設置し、『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』を上演した。生演奏と俳優たちの動きと語りが三位一体となった祝祭劇の代表作が、また新たな形となって東京のオフィス街のど真ん中という特異な場所で上演することができた。

本助成事業によって継続できているレパトリー創造プログラムの成果が、国内外での公演につながり、SPACの評価の向上につながっているといえる。

◆教育プログラム

◆地域活性化プログラム

SPACが現在実施している教育プログラムは、プロを養成するものではなく、一般を対象としたものであるが、その質の高さは参加者の満足度からもうかがえる。教育プログラム参加者を対象にしたアンケートでは、満足度は100%である。地域活性化プログラムは、共催者や連携先の人々とコミュニケーションを密に取りながら事業内容をアレンジしている。共催者へのアンケートによると満足度は86%。これらのプログラムを実施することでシビックプライドを育てられ、地域でのSPACへの評価も高まっている。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◎事業運営

事業計画、事業実施状況については、芸術総監督と制作部および創作・技術部各セクションのチーフのミーティングにより、定期的にモニタリングを行っている。そのほか毎月芸術局全体でのミーティングを実施し、同時並行で動いているプロジェクトの進捗を共有することで、事業の課題を直ちに発見し改善していける体制となっている。

◎経営戦略

財源の半分を占める静岡県一般財源補助金とは別に、静岡県の新規事業（SPAC演劇アカデミー、こどもが文化と出会う機会創出事業）の受託を受けるなど、財源種別の多様化を図っており、これまでの活動を持続するために必要な財源は、一定量の基準で確保できている。令和5年からは、文化庁の「文化芸術の自律的運営促進事業」を活用し、コンサルティングとの話し合いを重ね、収入の多角化を追求している。また、インバウンドに関連した助成も受け、演劇を活用した観光向けプログラムも考案中である。そのほか、個人協賛の枠組みの設置、プロセスエコノミー、映像配信なども実施している。

◎人事戦略

SPACは、設立当初から専属の俳優とスタッフを擁する劇場・劇団の機能を併せ持つ。専属契約の更新回数には上限を設けず、所属俳優およびスタッフのうち半数以上が10年以上継続して契約し、劇場運営および各事業の中核を担うことで、安定した事業運営が可能となっている。一方、毎年、新規スタッフの採用も行っており（経験者・新卒ともに採用）、次代を担う専門人材の育成にも積極的に取り組んでいる。

レパトリーの創造や公演、国内外の劇場・アーティストとの共同制作等を通して日々OJTを重ねることのできる環境が、長年に渡り我々の人材育成の基盤となっている。また、子育てや介護等スタッフの生活スタイルに合わせた多様な働き方ができる環境づくりを進めるほか、ハラスメント研修を定期的に行い、令和3年度は有志による検討を重ね「ハラスメントガイドライン」を作成した。

◎ネットワークの構築

地域活性化プログラムでは、静岡県立清水南中学校・高等学校や静岡情報高等専修学校など、年間を通して継続的な授業への講師派遣を学校側からの要望で実施するようになった。学校など教育機関への人材派遣・作品派遣の数は増えており、連携先の拡大および講師・コーディネーターとなる俳優・スタッフの人材育成が進んだ。

◎PDCA

本事業計画は、SPACの活動の根幹を成しており、レパトリー創造・教育・地域活性化の3つに大別されるプログラムを継続的に実施することが、組織活動全体の発展につながっており、PDCAサイクルによる持続的な発展を可能としている。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

創造アウトカムの発現を見出すための目標①～③について、令和5年度は目標①の舞台芸術に係る人材育成の人数と、目標②の公演回数と来場者満足度が、未達成となった。その達成率は77%～97%となっているので、いずれも100%超えるようにしていく。特に人材の確保はいずれの業界においても状況が厳しくなっているため、求人情報の広報を工夫が必要である。SPACのスタッフへのインタビューや対談などをウェブサイト等に公開したり、インターンを受け入れていくことを充実させていく予定である。

教育アウトカムの発現は目標④に紐づいており、令和5年度はいずれの指標も達成することができた。本事業の教育プログラムに加え、静岡県立高校の演劇専攻やSPAC演劇アカデミーとの相乗効果をねらい、さらなる向上を目指す。そのひとつの仕掛けとして海外の教育機関との連携を予定している。

地域活性化アウトカムは目標⑤⑥によって測られる。令和5年度は、地域活性化プログラムへの参加者数、実施箇所数において指標を達成することができなかった。共催者満足度は高いため、これまでの成功例をもとに広げていく必要がある。

以上のことから、組織の持続的な活動によりアウトカムのアウトカムの発現・定着は期待できる。